PRESS RELEASE 2024/11/11

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」プロジェクトに採択

～Z 世代による次世代畜産システム拠点構築に期待～

【概要】

この度、北海道大学が代表機関となり、幹事自治体の白老町、幹事機関の株式会社敷島ファームと共に提案した「次世代和牛生産システム構築拠点」（プロジェクトリーダー：北方生物圏フィールド科学センター　後藤貴文教授）が 10 月 1 日、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）地域共創分野 育成型」に採択されました。

【内容・対象・意義】

本プログラムは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）により実施され、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づく未来のありたい社会像を拠点ビジョン（地域共創分野では地域拠点ビジョン）として掲げ、その実現のため「バックキャストによるイノベーションに資する研究開発」とそれを支える「自立的・持続的な拠点の形成が可能な産学官共創システムの構築」をパッケージで推進するものです。これを通じて、大学等の強みや特色を活かしながら産学官の共創による拠点の形成を推進し、国の成長と地方創生に貢献するとともに、大学等が主導する知識集約型社会への変革を促進します。

北海道大学の地域拠点ビジョンは、「スマート放牧管理で Z 世代が導く革新的な地域社会の実現」を掲げ、以下の点を提案したものです。

（1）Z 世代が中心となり、地方の景観を持続的に維持し、安全・安心な食料を豊かに、スマートに生産する。
（2）Z 世代の農業者が未来に希望をもち、産業として世界と戦えるよう畜産業を構造改革する。
（3）幹事自治体として白老町、幹事機関として株式会社敷島ファームに協働いただき、参画機関には、慶應義塾大学、九州大学、帯広畜産大学、鹿児島大学、大樹町、株式会社神戸デジタル・ラボ、ファームエイジ株式会社、及び株式会社三菱 UFJ 銀行に参加いただき、本共創の場の拠点形成を目指す。
（4）Z 世代が、先端生物科学とスマート放牧管理により次世代の畜産を構築し、QOL や地方の新しい農産業の姿を基盤とした革新的な社会を実現することを目指す。

【支援期間】

2024 年 10 月 1 日（火）～2026 年 3 月 31 日（火）

共創の場形成支援プログラム【地域共創分野】

拠点名称：次世代和牛生産システム構築拠点

代表機関	北海道大学	プロジェクトリーダー	後藤　貴文 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター　教授
幹事自治体	白老町	幹事機関	株式会社 敷島ファーム
参画機関	慶應義塾大学、九州大学、帯広畜産大学、鹿児島大学 大樹町、株式会社神戸デジタル・ラボ、ファームエイジ株式会社、株式会社三菱UFJ銀行		

プロジェクトの概要

新しい生物科学概念「代謝プログラミング」により牛の代謝を早期に制御し、飼料には、地方にある限界集落、中山間地域・離島等の豊富な植物資源を放牧活用し、その管理には先端の宇宙技術を駆使する。Z世代が中心となり、地方の景観を持続的に維持し、安全・安心な食料を豊かに、スマートに生産する。そして、Z世代の農業者が未来に希望をもち、産業として世界と戦えるよう畜産業を構造改革する。Z世代が、スマート放牧管理により導く、地方の農産業を基盤とした革新的な地域社会を実現するものである。地域に牧歌的な景観をもたらし、若者が地域に根差し、スマートフォンを基盤とした自由な農業により、地域の植物資源からタンパク質を生産することによりマネーフローを持続的に展開し、Z世代の新しいライフスタイルを実現する社会を構築する。

「次世代和牛生産システム構築拠点」構成図（JST 提供）

お問い合わせ先

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター　教授　後藤貴文（ごとうたかふみ）

ＴＥＬ　011-706-3940　ＦＡＸ　011-706-3940　メール　gotoh@fsc.hokudai.ac.jp

ＵＲＬ　https://www.ees.hokudai.ac.jp/?staff=後藤貴文

https://www.fsc.hokudai.ac.jp/researcher/gotoh_takafumi/

配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北８条西５丁目）

ＴＥＬ　011-706-2610　ＦＡＸ　011-706-2092　メール　jp-press@general.hokudai.ac.jp